

経 済 透 視 図

120

回転ずしで人気なネー1位を獲得している。夕は何かと聞かれ、サーモンを思い浮かべる人は多いだろう。マル「回らずしに関する消費者実態調査2024」によれば、「よく食べているネタ」との設問に対して3000人の全回答者のうち50・6%と約半数の人がサーモンと回答。12年の調査から13年連続で

サーモンの陸上養殖

だ。一方で、近年では「かけ流し式」と国内でサーモンの陸上養殖に取り組む企業が「閉鎖循環式（RA S）」の2つに大別される。かけ流し式は海

した後に排水する方法で、閉鎖循環式と比較して相対的にコストは低い。大規模養殖が難しいという課題がある。また、日本国内でも循環させながら大部分を再利用する。かけ流し式と比較して、大規模養殖が土地や建物、機器類を高めるとしたイニシャルコストや運営コストは高いが、生産施設を海や河川の近くに限定する。また、新規参入や生産拡大などの供給量増数は662件（古くから河川、川沿いなどで営まれている陸上養殖、及び養殖を営むにケールメリットの獲得あたり大臣の許可が必要とされるウナギ養殖を除外）、うち74件が必要不可欠となると推定され、今後の動向に注目したい。

ブランド創出が不可欠

定されない点や病原体の侵入など外部環境の影響を防ぎやすい点、生育環境のコントロールが可能である点、養殖の大規模化が可能である点等のメリットもある。隔週水曜日に掲載



SMBBC日興証券
プライベート・
キャピタル・
ソリューション室
片山大樹

無断転載・複写禁止